

# 絵本の読み聞かせ

## しっかり声を出して相互作用の場所、空間を作る

お父さん、お母さん、保育士さん、学校の先生、子育て支援ボランティアさん、学生のみなさんへ  
絵本の読み聞かせは心を育てます。心の空間(自己)を広げ、心の働き(自我)を強める心理的な「遊び場」を作り出す営みです。子どもだけでなく、大人の心の再生にも役立ちます。

こうした「遊び場」を作るためには、読み手が積極的に場所作り、空間作りをしていく必要があります。読み手の声は、絵本の世界をひもときながら、読み手自身と聞き手を包み、そこに豊かな場所と空間を作ります。聞き手は読み聞かせの場所に安心し、読み聞かせの空間を生かして自由に心を動かすことができます。この読み聞かせの場で、読み手と聞き手、そして絵本の世界との相互作用が始まります。

このワークショップでは、声をしっかり出すための準備エクササイズをします。その上で、絵本の読み聞かせをします。読み聞かせを通じて共に豊かな場所、空間を作っていきましょう。そして、心を動かしてみましょ。

絵本は、こちらで用意しますが、もし、ご自身のお気に入りの絵本がありましたら、是非当日お持ち下さい。

### ワークショップ概要

ワークショップリーダー

高田 毅 (PAS 心理教育研究所)  
大野尚子 (PAS 心理教育研究所)

日時

9月2日(日) 午前の回 9:30-11:40 午後の回 14:30-17:30  
(「アゴラ」のプログラム全体は9時受付開始、18:30まで続きます。)

会場

宮城学院女子大学 大学体育館

対象

絵本の読み聞かせに関心のある方、  
しっかり自分の声を出してみたい方など、どなたでも



### 申し込み方法

「市民向け 無料 災害臨床プログラム」に申込み下さい。

大会ホームページのオンライン参加登録、あるいは同封の申込用紙をFAXまたは郵送でお送り下さい。

※参加登録は、午前の回は当日の9時より、  
午後の回は当日の14時より受付にて行います。

### 大会ホームページ

<http://www.iadp.info/>  
最新情報を随時更新しています。

### 災害臨床プログラム「アゴラ」について

災害臨床プログラムは震災に関わる心の傷の荷下ろしと、活力の取り戻しを目的としています。

3月にお招きしたボニー・ビュークリ先生に加え、国内外の専門家を多くお招きました。今回も参加者全員で「アゴラ」を1日をかけて再び創ります。

市民の方々も専門家の方々も東日本大震災を体験した人々で集まり、改めて震災の大事な体験を分かち合い、そしてまた活力を少し充填してみましょ。